

可児市からパラリンピックへ

8月13日、東京2020パラリンピック聖火フェスティバルの採火式を開催しました。市内3つの障がい者施設から採火した火は、各施設の代表者から可児市ふるさと広報大使の塚本明里さんが持つトーチに集火され、「おだや可児くらす共生の火」となりました。

式典に参加したハートピア可児の杜の加治木隆治さんは「採火式のように障がい者が活躍できる場が増え、障がいがあってもなくても、互いにコミュニケーションを取りながらみんなが平等に過ごせる社会になってほしい」と語りました。

「おだや可児くらす共生の火」は後日、岐阜県の聖火として1つに集められ東京へ届けられました。



全国にはばたけ！可児っこ

【7月27日】

少林寺拳法の全国大会に出場する、岐阜可児道院や可児御嵩スポーツ少年団に所属する9人の選手の激励会を行いました。

道院長の橋本和志さんは「岐阜県勢として精一杯の発表をしたい」と話し、他の選手たちも「今まで以上の結果を出したい」「コロナ禍でも全国大会が開催されることに感謝して、精一杯戦いたい」と意気込みを語ってくれました。



【8月13日】

ゴルフとサッカーで全国大会に出場する中学生3人の激励会を行いました。

「第26回日本ジュニアゴルフ選手権競技」に出場する日比野邑香さん(帝京可児中3年)は「上位を目指して頑張る」、水谷海琉さん(中部中2年)は「前回はいいい成績ではなかったの今回こそ」と、また「第36回日本クラブユースサッカー選手権大会」に出場するFC岐阜U-15の山下魁心さん(西可児中3年)は「自分らしいプレーをしたい」と意気込みを語ってくれました。

【8月26日】

支部予選大会で優勝し、全国大会となる「リポビタンカップ第52回日本少年野球選手権大会」に出場した春日井ボーイズの澤野晴さん(土田小4年)が報告に来てくれました。

澤野さんは「今回はベスト8だったけど、春の大会では優勝したい」と次の目標を誓い、市長は「周りの人に感謝しながら頑張ってもらいたい。次の報告を期待しています」と話しました。

